



「ぼうさい②」

【活用案】

関西大学初等部 教諭 石井 芳生

活動名 オリジナルぼうさいマップをつくらんカー

1. 番組活用のねらい

どの市区町村にもハザードマップはあるのに、関心もたれなかったり、活用されていなかったりするのが事実。そこで、番組を視聴し、多くの人に活用されるアイデアを出し合い、オリジナルのハザードマップをつくる見通しをもたせる。

2. 展開例（7時間目／15時間）

	子供の活動や発言例	教師の支援や留意点
導入 ↓ 5分 ↓	○多くの人に知ってもらえる、活用されるハザードマップのアイデアをおさらいし、実際にやるべきことを吟味する。 T: つくっても使われなくては意味がない。どのような工夫が必要か？ C: どこか危険か、災害時はどのあたりがどうなるか、避難場所や収容人数、備蓄品数がひと目でわかる。 T: なるほど。今日はそのような情報がわかるハザードマップを実際につくってもらおうための見通しをもってもらいたい。	<ul style="list-style-type: none"> 市のハザードマップに掲載されている情報を再確認し、もっと活用したくなるアイデアについて交流する時間を保障する。 アナログでなくてもよいことを伝える。 何を優先すべきかを整理し、どのようにしたら形にできるか調べる時間を保障する。 「ぼうさい②」をしっかりと視聴して参考にできるものを吸収するよう助言する。
番組視聴 10分 ↓	○「ぼうさい②」を視聴する。 C: ピクトグラムだ！クイズはいいなあ！ C: プロジェクションマッピング、すごい。 C: なるほど、立体模型かあ。	<ul style="list-style-type: none"> 10分止めずにメモしながら視聴させる。 子どものつぶやきや番組内のキーワードを拾いながら板書する。
個人 10分 ↓	○ワークシート② 「ピクトグラム作りやクイズ」に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート②を配付する（デジタル版）。 番組内で出てきた用語について、質問があれば、その都度、回答する。
全体 ↓ 10分 ↓	○ワークシート②に書いたことをもとに、グループや全体で交流する。 C: デジタル防災マップをつくってみたい。 C: スクラッチで作ってもいいですか。	<ul style="list-style-type: none"> 協働ツールで全員のワークシートを共有する。 記述したことをもとに伝え合う。 多くの人が使いたくなるようなことを取り入れるよう助言する。
ふりかえり 10分 ↓	○みんなで出し合ったアイデアをどのようにして実現させていくか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> プロの話や番組内で紹介された技術のうち、どれをどのように取り入れるべきか吟味し、マップ作成の見通しをもたせる。

3. 準備する物

・市のハザードマップ(冊子)とPDFデータ(デジタルデータ) ・タブレット端末(一人1台) ・ワークシート②(デジタル版)

4. 活動にあたって(この授業に望むこと)

ARのような最新技術に目が行きがちになるが、「よくわかる防災マップ」とはどのようなものか、自分でつくれるものかどうかを客観的に判断させる。だから、デジタルでもアナログでもよいことを伝える。立体模型にしても、スクラッチにしても、自分(たち)で試行錯誤しながら進めることが望ましい。